



東北防衛局広報紙
(東北6県の防衛に関する情報誌)

東北の **かなめ**

(第7号)

平成21年4月27日発行



一目千本桜 (大河原町の白石川堤)

緊急掲載：北朝鮮ミサイル発射への対応

— PAC-3を秋田・岩手両県に配備 —

2～3



特集：危機管理担当官等連絡会議

4

- ・スポーツに、食文化に、親善を深めるプロジェクト 5
- ・三沢飛行場周辺集団移転事業の歩み 6
- ・調達部ってこんなところ！「設備課」 7
- ・建設工事、こんなことも 7
- ・インフォメーション (平成21年度発注予定工事等) 8



防衛省東北防衛局広報編集委員会編集発行

宮城県仙台市宮城野区五輪1丁目3-15

TEL 022-297-8208

ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>

ミサイル発射への対応

・岩手両県に配備

北朝鮮は4月5日(日)午前11時30分頃、ミサイルを発射しました。自衛隊は落下等に備え、ミサイルが上空を通過するとされる秋田、岩手両県の演習場にペトリオット・ミサイルPAC-3を事前に配備し迎撃態勢を整えました。



岩手山中演習場に設置されたPAC-3



柳村滝沢村長



PAC-3レーダー装置

地元自治体への公開・説明状況
(3月31日岩手山中演習場にて)

3月12日、北朝鮮が国際海事機関に対し、「人工衛星」を打ち上げるとの事前通報を行い、4月4日から8日までの毎日11時から16時まで、日本海及び太平洋の一部に危険区域を設定したとの情報を受け、3月27日、浜田防衛大臣は自衛隊法に基づき、弾道ミサイル等に対する破壊措置の実施に関する自衛隊行動命令を発出しました。

この浜田大臣からの命令により、海上自衛隊は護衛艦「こんごう」「ちよつかい」を日本海へ、「きりしま」を太平洋に配置し、航空自衛隊はPAC-3部隊を首都圏3駐屯地と秋田県(新屋演習場等)と岩手県(岩手山中演習場)に配置しました。

東北防衛局による対応

東北防衛局は、事前に北朝鮮によるミサイル発射に係る自衛隊の対応について、部隊と共に関係自治体へ説明を行い、ミサイルが秋田・岩手上空を通過すると事前通報された4月4日から10日までの間、ミサイル発射及び被害状況等の情報を速やかに関係自治体に情報提供できるよう東北方面総監部などと連携を取りながら職員を待機させました。

対応初日となった4月4日、朝鮮中央通信が午前10時に「まもなく発射」と発表したとのニュースが流れ、即応態勢で待機中の12時17分過ぎ、「発射された模様」との情報が入ったときは、局職員の間にも緊張が走りましたが、すぐに誤報との情報が入り、その後の情報収集等に追われる1日となりました。

4月5日午前11時30分過ぎ、「発射された模様」との第一報後、ミサイルが東北北部上空を通過したとの情報が入ったときは、局職員は直ちに落下物がないかを確認し、その被害がないことを確認した際は一瞬ほっとしたものの、すぐに関係自治体へ情報提供を行いました。

4月6日には、弾道ミサイル等に対する破壊措置の終結に関する命令が発出されたのを受け、翌7日、当局は今回の緊急事態への対応について関係自治体へ個別に説明を行いました。

当局は、今回の対応を教訓に、今後はより早期情報の入手・情報提供及び部隊等との連携強化などについて改善策を講じ、対処していく考えです。

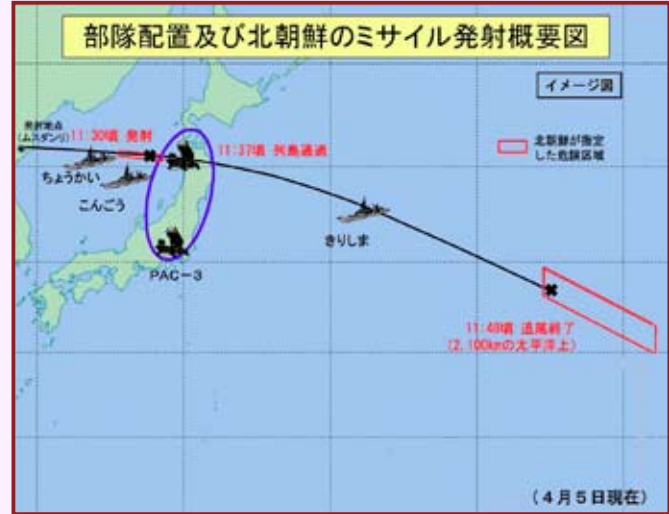
緊急掲載

北朝鮮ミサイ

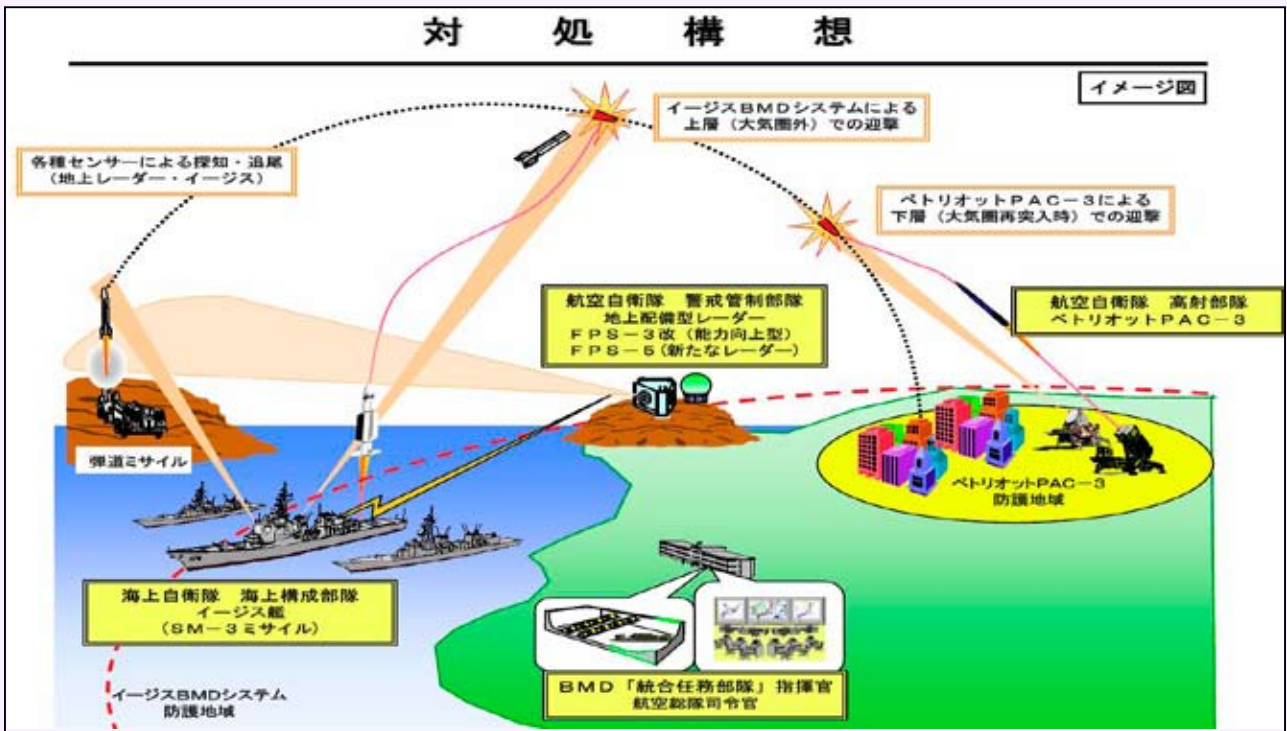
- PAC-3を秋田

北朝鮮によるミサイル発射事案経過

- 4月5日 11時30分頃 北朝鮮から東の方向に1発発射
- 11時37分頃 東北地方から太平洋に通過したものと推定
自衛隊法に基づく破壊措置は実施していない
- 11時37分頃 落下物1が秋田県の西、約280kmの日本海上に、落下したものと推定
- 11時43分頃 落下物2が日本の東、約1,270kmの太平洋上に落下すると予測(11時38分の時点)
- 11時48分頃 日本の東、2,100kmの太平洋上で追尾を終了
- 12時15分頃 秋田県沖の落下推定地域付近を捜索中のP3-Cが、海面変色を発見
- 4月6日 弾道ミサイル等に対する破壊措置の終結に関する命令を発出し、同措置を終結
(4月8日現在)



対処構想



東北防衛局による説明会の実施

3月25日、東北防衛局は、「弾道ミサイル防衛に関する東北地区各県・政令市危機管理担当官への説明会」を仙台市内で開催し、東北6県と政令市のほか22市町村の危機管理担当官ら35名が参加しました。

大澤東北防衛局長の挨拶の後、河村総務部長が弾道ミサイル防衛システムの概要や迎撃態勢を取るための国内法令などについて詳細な説明を行いました。



参加した自治体の危機管理担当官等からは、「一般論ではあるが、弾道ミサイル防衛(BMD)に関する基本的な知識を得ることができた。」「発射されれば、間違いなく東北地区上空を飛び越える」と予想される現時点で、このような説明会が開催されたことに感謝する。」との感想が出され、関係自治体による要望に応えることができました。

特集.. 危機管理担当官等連絡会議



平成21年2月4日、東北防衛局主催による「防衛省・自衛隊と東北地区各県危機管理担当官等との連絡会議」が仙台市内で初めて開催されました。

この会議は、東北防衛局が、東北地方における大規模自然災害への対応について相互理解と連携強化を目的として初めて開催したもので、東北6県、陸自東北方面総監部、海自大湊地方総監部、空自北部航空方面隊司令部と当局の危機管理担当者ら34名が参加しました。

冒頭、主催者を代表して大澤局長から連絡会議の意義等について挨拶があり、その後、各機関が昨年の岩手・宮城内陸地震における経験談をはじめ大規模自然災害が発生した場合の対応や連携などについて説明や意見交換などが行われました。

本会議は、当局が主催する初の連絡会議でしたが、「各県の災害対応の経費の確保策」、「災害派遣医療チーム（DMAT）の出動基準策定の必要性」などについて忌憚のない情報・意見交換が行われ、相互理解と連携強化のための一助となったほか、今後は、大規模自然災害への対応はもとより武力攻撃事態などが発生した際における関係機関との円滑な連携などもテーマとするなど、国民保護等に係る情報提供や意見交換が行われる場となるよう目指します。

—担当者から—



この会議は、東北防衛局として自衛隊の災害派遣等に際しての対応や連携等について相互理解を図るための初めての試みでしたが、私は会議開催前には、危機管理の分野において実務経験や情報の蓄積がまだ十分ではない当局が、これまで実績のある自衛隊や各県担当者とうまく意見交換できるか不安を感じながらも、関係各位の助言、協力を得て当日を迎えることができました。

当日は、各県の皆様と他機関の方と顔見知りになれたことや体験談を聞くことができ、また、参加者からは本日の会議は有意義であったとの言葉もいただき、危機管理を担当する皆さんで顔を合わせ意見交換などを行うこと自体に意味があったと思います。

今後は、局担当者としてこの会議を更に有意義なものにしていくため、試行錯誤しながら、関係機関との連携強化など協力体制の構築に努めていきたいと考えています。

高木基地対策専門官（当時）

当局と各県危機管理担当官の意見交換の状況



スポーツに、食文化に、親善を深めるプロジェクト

— 米軍三沢基地と周辺地域との交流事業 —

東北防衛局は、在日米軍基地周辺住民と米軍人等との交流施策を検討するための試行事業として、2月14日(土)、三沢市と米軍三沢基地の小学生による日米交流雪合戦大会を、3月4日(水)、東北町民と米軍三沢基地の米軍人等とのホームビジット&食文化交流事業を開催しました。



● 日米交流雪合戦大会 (三沢市)

この季節にしては暖かった当日は、日本側から8チーム、米軍基地側から4チームの約110名が参加し、ぬかるんだグラウンドに足を取られながらも競技が行われる中、駆けつけた家族や友人から「行け、そこだ」「Go, Go!」などと日本語と英語の声援が飛び交っていました。

今回の優勝は三沢市の「はまなすクラブ」でしたが、参加した米軍基地の小学生は、「来年はもっと練習して雪辱したい」と元気よく言っていました。それでも競技終了後は、敵味方なく、みんな仲良く温かい長いもすいとん汁をほおぼって無事に閉会し、相互親善のための一日となりました。

● ホームビジットと食文化交流 (東北町)

当日は、東北町の女性を中心に78名と米軍家族34名が参加し、訪問先の家族住宅で、東北町民は「長いもすいとん汁、炊き込みご飯」の郷土食を、また米軍家族は様々なアメリカの郷土料理をお互い料理の材料や味付けのコツなどを手振りを交えて紹介し、できあがった料理を食しながら、食文化等について語り合い楽しい時間を過ごしました。

東北町民の方から、「アメリカ文化を直に堪能することができ大変感動した」と感想をいただくなど、日米文化の違いが再認識できた一日でした。



御協力いただいた地元の方々

今般の交流事業を開催するにあたり、三沢市役所職員及び東北町役場職員の担当者に御協力をいただき、無事開催することができました。紙面をかりて感謝申し上げます。



三沢市役所職員の皆さん



東北町役場職員の皆さん

三沢飛行場周辺集団移転事業の歩み

三沢飛行場（青森県三沢市）においては、航空機騒音が特に著しい地域に住む移転希望者の要望を受け、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」第5条に基づき、集団移転事業を大規模に実施しています。

集団移転事業の経緯など

三沢飛行場東側の^{よかわめ}四川目地区の一部が、昭和54年に第2種区域（航空機の音が著しくうるさい区域）に指定され、翌55年から住宅等の移転が始まりましたが、各個人による移転が進むにつれて、しだいに地区行事等の運営に支障をきたすようになり、地区住民の方々から歴史ある四川目集落を崩壊させてはならないとの声が高まりました。

この地元の要望に応えるため、地区住民の多数が一同となって騒音の少ない地区へ移転する、いわゆる「集団移転事業」が計画されましたが、三沢市では初めての事業であったため、住民の方々から移転先地の選定、先地における各区画への希望者の割付け、移転の順番などの数多くの疑問・不安が寄せられました。

そのため、当局は三沢市の協力を得て幾度も説明会を開催し、昭和63年には、地区住民の方々の御理解と御協力の下、同市内大津地区への集団移転を開始することとなり、平成8年度までに約260戸の移転を無事完了しました。

この移転を契機に、他の地区からも集団移転の要望がなされ、現在まで三沢飛行場周辺の4地区約420戸の方々が集団移転をされています。



永劫の里
(永い年月、人家が集まっていたところ)

四川目地区集団移転の20年を振り返る式典

三沢飛行場の航空機騒音で、三沢市四川目地区から集団移転した大津町内会が発足20周年を迎えたとして、式典を開き、これまでの苦労や喜びを振り返りました。

「高橋高男大津町内会長、栗原隆成副会長」

四川目町内を集団移転するかどうかの判断においては、先祖代々の土地を守るか、子、孫のため移転するか大変な窮地に陥りました。また、移転後、最初の移転者で、現在の大津町内会を立ち上げたが町内会の運用資金がなく、大変な思いをしたことが昨日のように思い出されます。しかし、今は、子、孫のために集団移転してよかったと思っています。



「三沢市役所吉田建設部長」 (三沢市役所の初代移転担当係長)

集団移転事業の全体計画の作成において、仙台防衛施設局（現東北防衛局）との道路等公共施設の規模決定の調整に苦労したことが思い出されますが、それより苦労したのが、東北農政局との移転先地における農振法の農用地区域解除の調整でした。今となってはいい思い出です。



— 若手職員からの業務紹介 —

防音対策課移転対策室の菊田優一郎です。

当課では、移転措置、一般防音、住宅防音の3つの業務を行っており、その中で、私の所属している移転対策室では、航空機の騒音により日常生活にいろいろな障害が生じている住民の方々の御要望により、建物等の移転補償及び土地の買入れの業務を行っています。

私は、三沢飛行場周辺の建物等の移転補償を担当していますが、住民の方にとって、移転は住み慣れた土地を離れ新たに居を構えるという大きな出来事であるため、業務には日々、緊張感を持って取り組んでいます。

時には、移転を希望される方々との補償協議の際に、その場ですぐに納得してもらえず説明に苦労することもありましたが、移転完了後に「どうも」と笑顔で会釈されると、この事業を実施してよかったと思っています。



菊田事務官

調達部ってこんなところ！

設備課とは



大空間照明 (三沢格納庫)

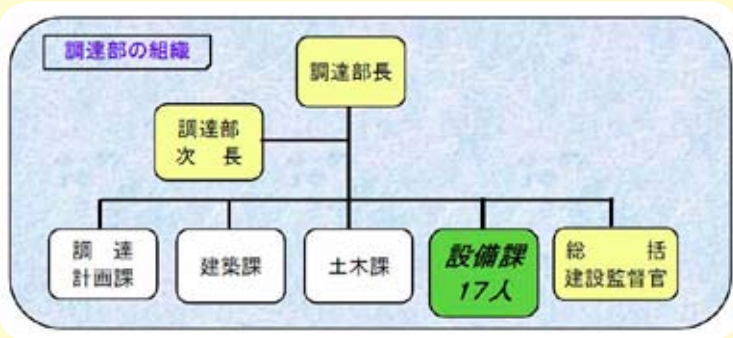


今野設備課長

— 設備課長から —

設備課は、電気、機械及び通信係で構成されています。自衛隊・米軍工事に共通ですが、どちらかというとな建物の付帯工事が主で、他には、飛行場の航空灯火や屋外の燃料配管や給汽設備（蒸気を運ぶための配管）なども所掌しています。

防衛施設の建設にあたりユーザーから喜ばれる使いやすい施設の建設をめざし設計・積算・監督業務に職員17名が丸となり取り組んでいます。また、地球温暖化防止、CO2削減対策の一環として氷蓄熱空調、発光ダイオード（LED）照明器具、センサーによる照明制御等の採用に積極的に取り組んでいます。



— 若手職員から —



山崎敬宮

入省して今年で8年目になります。熊本県出身の僕にとって、雪とはロマンチックなイメージが強かったのですが、昨年3月に検査の立会いで、三沢基地に行ったとき、大雪のため検査現場が見えなくなり電工さんたちと一緒に辛い除雪作業を行いロマンチックなイメージとは大違いでした。電気職種の僕は、新しい省エネ技術を学び、それを防衛施設に生かせればと思っています。

建設工事、こんなことも

— 近隣の方々への説明 —

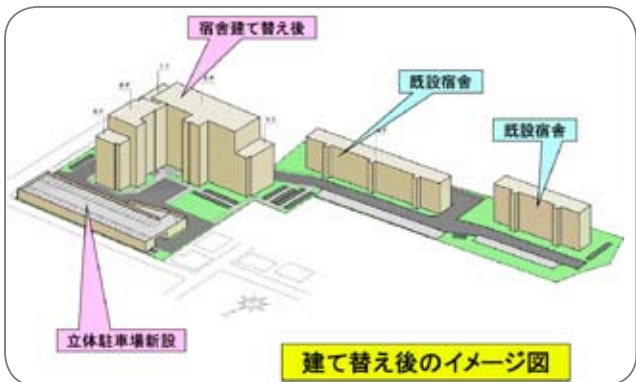


(1月28日、東北防衛局調達部10名、弘前駐屯地業務隊5名が説明)

弘前市松原西町にある自衛官用公務員宿舍（3棟）は、建設から40年以上が経過し、老朽化が著しいことから、21年度から新たに8階建ての宿舍建設に着手することになりました。

東北防衛局調達部では、公務員宿舍等の建設にあたって、近隣の住民の方々に対する説明会を行っています。今般、青森県弘前市の自衛官用宿舍の老朽化に伴い、新たに地上8階建て（世帯用60戸、単身者・独身者用35戸）の宿舍建設を平成21年度から着手するにあたり、昨年から3回にわたり、同駐屯地と共同で近隣の方々に建設工事の概要や日影・騒音等の影響について説明を行いました。

説明会に出席された上松原町会町会長ほか近隣の方々からの、立体駐車場の階段位置、日影への配慮等の御意見を踏まえつつ、事故のない安全な建設工事に取り組み、平成22年度末の完成を目指しています。



東北に 食 あり

—青森県上北郡東北町—

五目まぜごはん「まっとける〜」

東北町特産品販売促進協議会は、伝承料理を中心とした加工品の販売活動を行っており、その中に「まっとける〜」(地元の言葉(南部弁)で、もっとちょうだい・おかわりのこと)と呼ばれるものがあります。これは、東北町産のごぼう、にんじん、わらびがふんだんに入っているまぜごはんの具で、普通に炊いたごはん混ぜ合わせるだけでおいしい五目ごはんができます。

3月4日に東北防衛局主催で、米軍三沢基地に隣接する東北町の主婦らが同基地の米軍人の家庭を訪問し郷土料理を作る食文化交流を行いました。その際の郷土料理として「まっとける〜」の具を使った五目ご飯を調理し、米軍人が食したところ、ヘルシーでとても美味であったと聞いています。

紹介した「まっとける〜」は、東北町道の駅「湖遊館」で年中販売しているとのこと。みなさんも是非一度試してみる価値はあると思います。



道の駅おがわら湖 湖遊館

住所：青森県上北郡東北町大字上野字南谷地 122

電話番号：0176-58-1122

開設時間：9:00～19:00(夏期)、9:00～18:00(冬期)

- INFORMATION -

平成21年度発注予定工事等の公表

平成21年度に東北防衛局が発注する工事等予定は、4月15日に公表しております。公表内容については、当局のホームページ (<http://www.mod.go.jp/rdb/tohoku/>) に掲載しております。また、当局情報公開室(5階)でも閲覧できますので、ご覧ください。

東北の自衛隊広報行事

自衛隊(東北管内)が今後予定している広報行事等は次のとおりです。是非、見に来てください。

開催日	イベント名	開催場所	問い合わせ先
5月	5月29日(金) 第33回東北方面音楽隊青少年コンサート	仙台市青年文化センター	東北方面総監部広報室 022-231-1111
6月	6月7日(日) 第9回師団創立47周年記念行事 青森駐屯地創立58周年記念行事	青森駐屯地	第9師団司令部広報室 017-781-0161
	6月中旬 会津若松音楽祭	会津若松市「風雅堂」	福島地本会津若松出張所 0242-27-6724
7月	7月25日(土) 郡山駐屯地夏祭り	郡山駐屯地	郡山駐屯地広報班 024-951-0225
	7月26日(日) 船岡駐屯地夏祭り(フェスティバルinしばた)	船岡駐屯地	船岡駐屯地司令職務室 0224-55-2301
	7月31日(金) 神町駐屯地納涼祭	神町駐屯地	第6師団司令部広報室 0237-48-1151

※事前の申し込み、入場整理券等が必要なイベントもありますので、お出かけの前に問い合わせ先にご確認ください。

編集後記 「よろしくお祈りします」

4月1日付けで報道官になりました尾山と申します。今回初めて第7号の編集作業を行いました。何をどうすれば良いのか分からず、上司から「発想を転換しろ！」などのやさしい(?)指導を何度もいただきながら、どうにか発行にこぎつけました。本号の発行に際し、改めてわかりやすい紙面づくりの難しさを痛感し、これまで斬新な編集に尽力された前任の本田さんに敬意を表すると共に、今後とも東北防衛局の広報紙「東北のかなめ」がなるべく多くの方々を読んでいただけるよう努力したいと思っております。